

7 パーリー卿

耳元で男は愉快にささやいた
「ぼくに人の心が読めるとしたら
お嬢さん きみを毎日見ていて判った
きっとぼくを愛してくれているはず」
消え入るように娘は答えた 5
「あなたほど好きなお方はおりません」
男は一介の風景画家
娘はただの村娘
嬉しくもためらいがちな唇に
男は臆せず口づけした 10
娘を村の教会へ連れてゆき
二人は娘の家を旅立った
「結婚の贈物は何もない
新妻への贈物は何もない
二人の愛で住まいを飾ろう 15
命よりも大事な人よ」
いくつもの荘園やお屋敷を過ぎてゆくと
壮大なお城が建っていた
夏の樹々はお城の周りでさらさら鳴って
大地から聞こえるささやき声のよう 20
男は物思いから覚めたように
彼を慕う娘に言った
「あの立派なお屋敷を見物しよう
お金持ちの貴族の住まいだ」
娘は男と連れ立って 25
耳元には愛のささやき途切れない
自分の家から男の家への途中に広がる
美しく壮大な眺めを楽しんだ
荘園には榎と栗の樹が茂り
荘園も庭園も行き届いた手入れがなされ 30
貴人と貴婦人の いにしえ 古のお屋敷は
贅沢と地位を誇っていた

見せてくれるものすべてが彼を愛^{いと}おしいと思わせた
娘がじっと見ていたものは
近づいてくる あのコテージ 35
二人はそこで暮らすのだ
ああ 娘は夫を心から愛するだろう
彼に楽しい家庭をつくってあげよう
彼の家に着いたなら
家中をきれいに片付けよう 40
喜びに胸ふくらませた娘が
外門に着くと
目にしたものは荘厳な紋章
門の下で向きを変えると
そこに建っていたお屋敷は 45
娘が見たこともない壮かさ
大勢の着飾った召使いたちが
入り口で夫にお辞儀して
物腰も^{うやうや} 恭しく
夫の言葉に應えていた 50
夫は堂々とした足取りで
広間から広間へと進んでいった
娘は今や呆然として
何のことだか解らない
夫は誇らしくも優しげに振り返った 55
「これはすべて きみとぼくのもの」
地位と財産に恵まれて 夫はここに住んでいる
美しく大らかなバーリー卿
国中探しても
彼ほどの立派な領主は見つかるまい 60
娘は瞬時に真っ赤になって
額から顎まで かわいい顔を朱に染めた
恥じ入るように赤くなり
娘の中で何かが変わった
それから 娘の顔色は 65
死人のように青ざめた
愛^{いと}おしげに 卿は娘をかき抱き
愛で心を励ました
娘は心の弱さと闘って

時々に 沈む気持ちを励ました 70
女らしい辛抱強さで
夫に合わせようとした
卿は優しい夫となり
娘も卿の気持ちを汲んで
気高い貴婦人へと成長し 75
お屋敷の人々もこぞって夫人を愛おしんだ
だが 憂いは重くのしかかり
朝な夕なに苦しんだ
高い身分という重荷は
生まれつきのものではない 80
夫人は少しずつ弱っていった
「ああ あの人が
普通りの風景画家だったなら
わたしの心を奪ったあの人だったなら」
卿の前で 夫人はだんだん弱っていき 85
静かに卿の側から消えていった
三人のかかわい子どもを産んで後
夫人は年若くして天に召された
バーリー卿は 朝な夕なに
あちらこちらをさまよい歩き 90
嘆きに暮れた
スタムフォードのバーリー屋敷も喪に服した
死んだ妻への最期の別れに来た卿は
こう言った
「妻にあの服を着せておくれ 95
妻が婚礼に着たあの服を」
侍女たちは静々と歩を進め
夫人の魂が安らかでありますようにと
あの婚礼衣装を着せたまま
夫人を土に埋葬した 100

(中島久代訳)